



滝部神社郷社昇格願添付周辺見取図（「県社以下神社」県庁戦前B666）〔昭和4年〕



「音」で読み解く
防長の歴史

13

生活ノオト⑤

耳を澄ませば聞こえてくる！

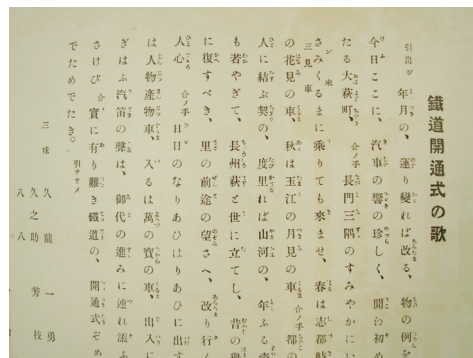
【鉄道開通時の滝部のにぎわい（昭和初期）】

阿川毛利氏が信仰を寄せた滝部八幡宮の社格昇格申請に添えられた絵図面からは、にぎわう滝部の音風景を見て取れます。鳥居前を行き交う人々、自動車、荷車。街路の音が聞こえてきます。煙を吐きながら滝部駅に向かう機関車、駅の給水塔、駅に集う人々も描かれています。地元出身の中山太一（クラブ化粧品の中山太陽堂創業者）の尽力で滝部に念願の鉄道が開通したのは大正14年（1925）8月。地元商工会主導で発行された「豊北名勝案内附滝部沿革志」（一般郷土史料B 240）などの冊子や鳥瞰図には、下関と直結されることになった滝部の未来予想図が明るく描かれています。

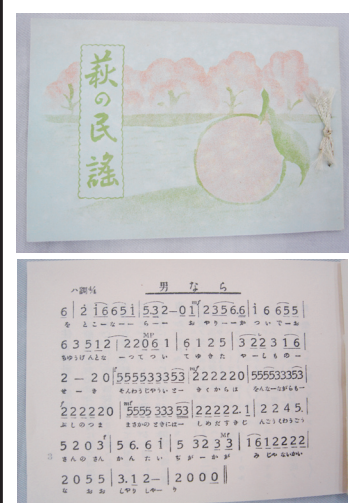
響灘沿岸地域における鉄道の延伸北上に大きな力を発揮したのが、小串出身の衆議院議員大岡育造です。その政治的基盤であった政友会は「我田引鉄」を前面に押し立てて、地方への鉄道敷設と引き替えに集票を企てました。こうした利益誘導的な政治手法には批判もありましたが、近

代化を待ちわびた地方の人々にとって、「鉄道の響き」はまさに近代への夢の架け橋だったのです。昭和3年、下関－滝部間の小串線はさらに阿川まで延伸されました。この時制作されたのが「省鉄長門線鉄道唱歌」や「鉄道開通祝賀の歌」（ともに展示品参照）です。耳馴れたフレーズにのせられた歌詞には、沿線の奇勝景観のみならず、地域の歴史や未来像が、溢れんばかりの期待感をこめて、ドラマチックに、そしてリズムカルに読み込まれていたのです。

鉄道の部分開通のたびに、各地で歌や踊りに彩られた盛大な式典が催されました。



「開通式の歌（萩）」（一般郷土史料 B122）



「萩の民謡」
（一般郷土史料 B 110）
萩市観光協会発行

昭和10年の「萩の史蹟名勝と産業大博覧会」開催時に作製されたものと思われます。「男なら」「住吉神社のお船唱」「萩小唄」などの俚謡に加えて、市内の観光名所を余すところなく読み込んだ「夢の萩街」などの歌詞や数字譜が掲載されています。パステル調の色彩が印象的な表紙には、萩の象徴「夏みかん」が描かれています。

史料にひそむ近代の音あれこれ



▲1 「波と船の音」



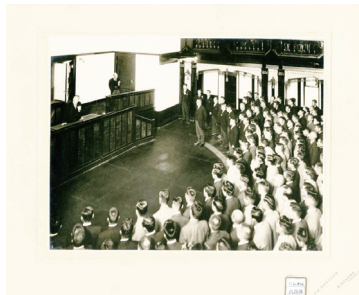
▲2 「ダム」の音



▲3 「せめぎあう人工物と自然景観」



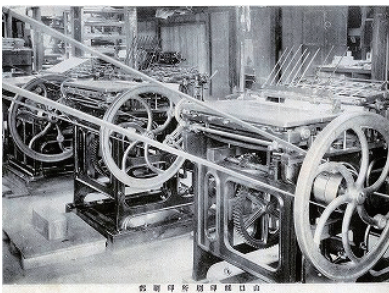
▲4 「万歳の声」



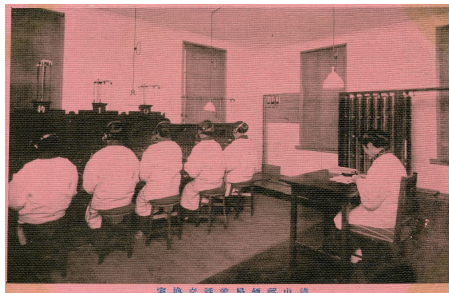
▲5 「演説の声」



▲6 「激励の声」



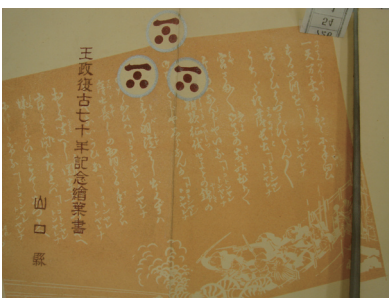
▲7 「職場の音①」（印刷）



▲8 「職場の音②」（電話交換）



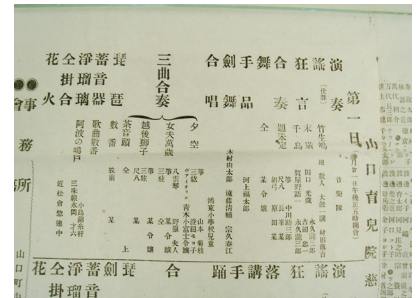
▲9 「音と絆」（サークル活動）



▲10 「防長精神の音」



▲11 「校歌」



▲12 「チャリティーの音」

1) 秋穂二島村真照寺位置図〈「明治28年古社寺調査」県庁戦前A社寺123〉 2) 向道ダム〈「錦川利水工事記念写真帳」山口市山本家文書11〉 3) 惣郷橋梁〈「萩線建設概要」三村家文書3〉 4) 松崎小学校〈「大正天皇皇后行啓記念写真帳」剣持家文書512〉 5) 田中義一演説〈「行政資料」戦前内務部164〉 6) 県庁職員出兵壮行会〈「久幸雄雄文書374」〉 7) 山口県印刷所の機械〈「県印刷事業創立十周年記念写真帳」一般郷土史料B78〉 8) 徳山郵便局電話交換室〈「雨村家文書266-3」〉 9) 防長音楽協会発会式記念写真〈「剣持家文書584」〉 10) 王政復古七十年記念絵はがき〈「文書館図書726-54」〉 11) 山口高等女学校創立卅周年記念絵はがき〈「雨村家文書330-1」〉 12) 山口育児院慈善演奏会式次第〈「河野家文書513」〉